

野菜の展望

今月の野菜は、梅雨明け以降続いている記録的酷暑の影響が表れるのではないかと考えられます。8月に入り、続けざまに襲来する台風と、それにとまなう線状降水帯による極端な大雨と、野菜の栽培条件としてはかなり厳しい日々が続く、入荷量の確保が難しい品物も散見されようかと考えられます。そんな入荷動向の中でありますので、なおのこと皆様との情報伝達と意思の疎通をはかってまいりたいと思います。

葉茎野菜類の白菜は長野からの入荷です。長野産は高冷地主体に準高冷地も加わり、平年並みの入荷が予想されます。キャベツは長野・群馬産の入荷です。葱は石川産を中心に北海道・青森・埼玉からの入荷となり、各産地平年並みの出荷が見込まれています。ほうれん草は岐阜の飛騨高冷地を主体として他に石川産の入荷がありますが、猛暑による影響から出荷が少なくやや不安定な入荷となります。レタスは長野産準高冷地・高冷地物の入荷、ブロッコリーは北海道産主力に長野産の入荷となります。

根菜類の大根は北海道産主力に岐阜・青森産の入荷です。各産地、高温・干ばつ傾向で生育不安が懸念されますが、平年並みの入荷を見込んでいます。人参は北海道産主力の入荷となりますが、現在の所干ばつの影響からM・S中心出荷ですが、今後は徐々に比率も上がり、平年並みの入荷見込みです。蓮根は石川産中心に愛知・茨城産の順調な入荷が見込まれます。甘藷についても石川産を中心として茨城産の入荷となります。里芋は宮崎・大阪産の入荷です。

果菜類の胡瓜は石川・福島・長野・山形産の夏秋作型の入荷に、福島・群馬・石川産のハウス抑制型が加わり、群馬・石川産は下旬に向けて増量の見込みです。茄子類は石川・山形・群馬産に加え、中下旬より高知、熊本産が加わる見込みです。トマトは岐阜産の夏秋作型の入荷が下旬に向けて減少となるものの、石川産のハウス抑制型が増量する見込みです。ピーマンは長野産主体の入荷予定ですが、7月～8月の高温の影響で不安定な入荷となる見込みです。

土物類の馬鈴薯は北海道産の入荷で、本年産の生食向けの作付けはメークインを中心に今年も若干減少しており、かつ高温干ばつの影響から小玉傾向となっていることから入荷の減少が予想されます。玉葱も北海道各産地からの出荷となります。不作であった昨年に比べ、生育も順調で潤沢な入荷見込みです。長芋は北海道・青森産ですが、数量少なく高値推移と見られます。牛蒡は青森産中心の入荷。8月の降雨の影響を受け不安定な出荷が予想されます。

菌茸類の松茸は中国産を主体にカナダ・米国等の諸外国からの輸入物に加えて、中旬からは長野・岐阜等の国産の入荷が予定されています。今年度の中国産は8月に潤沢に出荷されたこともあり、9月は少ない出回りが予想されます。価格も需要期をむかえて整調な推移を見込んでいます。椎茸は石川産菌床物は地震の影響を受けて入荷減の予定ですが、長野・新潟・富山・徳島産は順調な入荷です。えのき・なめこ・しめじ類にエリンギ・舞茸等のきのこ類は、全体的に下旬から本格的な量産体制となり、潤沢な出回りで秋の需要期を迎えます。

今年も厳しい気象条件になる可能性もありますが、石川産については、果菜類の抑制型が増量し、甘藷・蓮根といった加賀野菜も順調な入荷となります。食欲の秋、味覚の秋や産地フェアを訴求した各種企画立案による拡販をお願いいたします。

《取締役野菜担当営業副本部長 嶋田 亮》

果実の展望

秋果実の本格的な出荷時期を迎えましたが、日本列島全域が温暖化の影響を受けており、今月は果実全般において夏果実同様、昨年並みの出荷が予想されます。

温室みかんは愛知・佐賀産の入荷がありますが、各産地共に生産量が少なく、中旬に入荷終了予定です。少加温（グリーンハウス）は愛知産主力に佐賀産の入荷となります。露地みかんは中旬以降より宮崎・佐賀・和歌山・福岡産が順次入荷スタートしますが、高温干ばつの影響を受けているため小玉傾向になります。

梨はJA金沢市・JA松任・JA加賀と県内産主力の入荷となります。豊水・二十世紀、中旬からあきづき・南水等の入荷予定。加賀しずくは週3回の販売の予定です。

ぶどうは各地から多品種の入荷があります。長野・山梨産を主力とした巨峰を中心に、岡山産や山梨産のシャインマスカット・G.ピオーネ・甲斐路・ロザリオ等の入荷となります。石川産については、G巨峰・ルビーロマンなどの入荷があり、ルビーロマンは前年以上の入荷が予想され、徐々に減少しますが、今月一杯の入荷が見込まれます。りんごは長野産のサンつがるの入荷がありますが、高温の影響を受けており、着色の遅れ等が見られます。青森産のサンつがるが中旬より入荷となります。

柿は中旬より和歌山産の平核無の入荷が始まります。

瓜類は静岡産主力に北海道産アールスメロンの入荷です。上旬より秋作の石川アールスが4玉中心でスタートします。

いちじくは愛知産の露地物主力に、宝達志水町産の地物の露地物が加わります。

栗は石川・岐阜・愛媛・茨城からの出回りとなります。出始めは小玉傾向と見られますが、入荷量は年々減少傾向です。

輸入果実では、バナナはフィリピン産、南米産ともに不安定な入荷です。オレンジはオーストラリア産ネーブルと南アフリカ産バレンシアを中心として安定した入荷となります。グレープフルーツは南アフリカ産のスタールビー種・ホワイト種の入荷で前年並みの入荷となります。レモンも同様にチリ産が前年並みの入荷見込みです。パイナップルはゴールデン・スウィーティオともに不安定な入荷見込みです。ハネジューメロンはカリフォルニア産の入荷です。また、季節商材としてはアメリカ産ザクロや中国・韓国産生むき栗が出回ります。他にもアメリカ産ぶどう等のトロピカルフルーツの入荷も予定されています。

食欲の秋を迎えて食卓に多くの果物が並ぶよう今月も御協力の程お願い申し上げます。

《取締役果実担当営業副本部長 荒木 智》